

fabC. vol.19 2025.01.01

Editors 大上翔子 窪木愛乃

Publisher 東京理科大学 伊藤香織都市計画・都市デザイン研究室

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 TEL 04-7123-4785

URL <https://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>

Print 祥美印刷株式会社

i-lab

Members

Professor 伊藤香織

Junior Associate Professor 高柳誠也

D3 一谷和希

M2 天野航一 伊藤陽人 佐藤水香 辻耀 濱口桂帆 濱松翔 南谷優太 四方田綾乃

M1 安藤朋恵 陳嘉檀 辻本桜子 許山桂 荻尾匠 古林陸 劉雨萌

B4 上村知輝 大上翔子 鎌田航 窪木愛乃 小林凌真 佐々木俊太 佐野葉那 鈴木悠真 須藤善己 高橋奎介
高久直希 森雅樹

fabC. は伊藤研究室 (東京理科大学創域理工学部建築学科) が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

fab C.

vol.19

Contents

i-lab picnic in 2024	01
Picnic Interview	05
Research Excursions	09
Members' Activities	13
Dr.Takayanagi' s Comment	16
Design/Theses/Papers	17

i-lab picnic in 2024

伊藤研究室では、地域を知り、公共空間を使いこなす取り組みとして、ピクニックを行っています。
今年度は様々な場所・時間にピクニックを実践しました！



東京外国語大跡地の公園でピクニック。住宅街の中にある公園は、近隣住民の賑わい・寛ぎの場でした。

✿ ✿ twilight picnic ✿ ✿

place: 西ヶ原みんなの公園（東京都北区）

guest: 相馬千秋さん season: Autumn



谷口吉生氏設計のクリスタルビューと観覧車を背景にピクニック。研究室のOBOGも駆けつけました。

✿ ✿ daytime picnic ✿ ✿

place: 葛西臨海公園（東京都江戸川区）

season: Spring

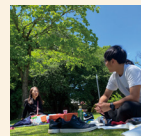


2023 年春に改修再開した東遊園地。開かれた公園づくりで、夜でも多くの人が使いこなしていました。

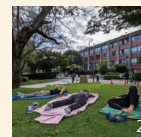
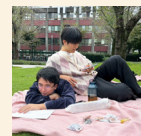
✿ ✿ ✿ evening picnic ✿ ✿ ✿

place: 東遊園地（兵庫県神戸市）

guests: KIITO 近藤さん、加藤さん、能瀬さん season: Summer



天気のいい日には
大学の中庭で
ピクニック、ゼミ
エスキスなども
行っています！



Picnic Foods

collective inspirations

for a picnic



10月に西ヶ原みんなの公園で開催したピクニックでは、様々な手作りの味覚が持ち寄られました。また、国境や領域を超えて活躍されている相馬千秋さんをゲストに迎えて「ボーダレス」をテーマにしたため、和洋折衷など、「当たり前」から一歩踏み出したメニューも多く集まりました。

8月に神戸の東遊園地で開催したピクニックでは、パンのまち神戸の特徴を活かし、三宮のビゴの店などから三種類のパンを集め、各自がパンに合わせるものを持ち寄ることにしました。神戸で買った食材や夏休み中のあちこちの訪問先からの食材など、パンをヒントに多彩な食材が集まりました。

Picnic Interview

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回はアートプロデューサーの相馬千秋さんにお話を伺いました。



Chiaki Soma

相馬 千秋 さん

アートプロデューサー・NPO 法人芸術公社 代表理事

演劇、現代美術、社会関与型アート、VR テクノロジーを用いたメディアアートなど、領域横断的な同世代芸術のキュレーション、プロデュースを専門としている。フェスティバル/トーキョー初代ディレクター（2009-2013）や、あいちトリエンナーレ2019キュレターなどを務める。

アートプロデューサーという職業を選ばれた理由を教えてください。

元々なろうと思ってなったわけではなく、アートプロデューサーという職業もあったわけではないんです。大学生のころ、なんとなく日本から離れたいと思いい、フランスに留学したときにたまたま、アートマネジメントや文化政策、キュレーションを学ぶことのできる大学院を見つけて入学しました。でもそこを卒業したからと言ってアートプロデューサーになれるとかはよくわかっていなくて笑。フランスで色々活動をしていて日本に帰国したときに、たまたま国際芸術祭の事務局みたいなところに入ることができて。当時、アートに関する仕事っていうと美術館の学芸員ぐらいしかなかったんですが、事務局でアートプロデューサーとして活動して行くうちに、アート作品を通じて世界と繋がっていくことがすごく自分の興味に合うし、そういうことが得意だということに気が付いてわりとうまくいったんです。ほぼ成り行きですね笑。

「都市そのものが劇場である」

これまでに関わってこられたプロジェクトをいくつか教えてください。

私はやっぱりフェスティバルという場が主戦場だったかなと。愛知トリエンナーレ2019と2022にパフォーミングアーツのキュレーターとして関わっていたりとかその前だと2009年から13年までフェスティバル/トーキョーの最初の立ち上げとディレクターをやっていました。

た。その時に「都市における祝祭的な場はどうあるべきなのか」すごく考えて、舞台があって、そこで何かを見せるということだけでなく、都市そのものが劇場であるという発想、観客席を都市の中に見つけていく、あるいは観客席を都市に出していく、そういう発想のプロジェクトを沢山やっていました。



photo by フェスティバル/トーキョー 2013

そのような発想はどのように生まれたのですか？

例えばフェスティバル/トーキョーのディレクターをやるとなると、東京という都市を考えることが大前提になるじゃないですか。でも東京っていう都市ほど掘みづらいものはないというか、どこからどこまでが東京かわからないし、東京って何？って聞かれてもすぐに答えられなくて。しかも東京でフェスティバル、祝祭的な場を作るって言っても、祝祭ありまくりというか笑。渋谷スクランブル交差点に行けばそれだけで非日常だし、東京ドームに行けば一晩で5万人盛り上がってるし、この街にこれ以上の祝祭って必要なかなと。じゃあ祝祭っていうのは、単に人々が盛り上がっているということではなく、むしろ普段出会わないものと出会う仕組みとか仕掛けを見つけていくことなのかなと。ピクニックとかもそうなんですけど、普段日常的に暮らしている都市がちよっと違って見えてくるとか、違った身体感覚を持っているみたいなん、そういう仕掛けとして演劇やアートを使っていこうと考えました。

「演劇は土地と人をつなぐ扉のようなもの」

相馬さんが総合プロデューサーを行った豊岡演劇祭に今年サポートスタッフとして参加した学生がいます。但馬各地の劇場や芝居小屋、駅前空間を舞台にして、地域住民や観光客を巻き込んで演劇が展開されていることが印象に残っているという話を聞きました。演劇をはじめ舞台や文化芸術が地域振興や街づくりにとどのようにかわることができるかとお考えですか？

私の場合、考え方が逆なんです。芝居小屋とか演劇的な場って元々あったわけですよね。現在の街づくりという、あたかも何もなかったところに公共ホールを作って、それを文化の拠点にしようっていう発想になるんですけど、私はむしろ元々あるものを活用していった方がいいっていう考え方なんです。豊岡の隣の石出に永





茶館という芝居小屋があるんですが、あそこで以前ある劇団がすごく面白い作品をやっていて、スイッチを押すと突然演劇が始まるっていう。スイッチっていうのも、なにかボタンがあるわけではなくて、なにかトリガーを与えている、例えば、このドアを開けてください、そうすると突然何かが始まる。演劇って一種トリガーみたいなものであって、過去の記憶やその土地のものとそれを見る人をつなぐ扉みたいなものでしかないんです。だからそのつなぐ作業をちゃんとやればよくて。立派なオペラを呼んでしましようとか、そういうことではなくて、そこに既にある物語とか、人の想像力をつなぐちょっとしたトリガー、フレームって言うかもしれないんですがそういうささやかなもので考えていくと思います。出石の永楽館もそうですけど、元々ある歌舞伎とか、地域に根差していた色々な想像力の痕跡を活用していきたいなと個人的に思っています。

✦「日常の営み自体ある種の演劇である」✦

特に好きな芝居小屋などはありますか？

そうですね。ただ実際に使うとなるとボロボロだったり、消防法が云々とか色々難しいんです。だからいいんです。皆さんもこの状態をピクニック劇場って言えばいいってことです。劇場などのハードというよりは、この営み自体が1つの演劇的な場であると読み替えて、誰かが主人公というよりは、私が体験者であり主体である。立派な出し物があるものが演劇やアートと考えるのではなく、自分自身の経験自体がその本質である、ここで食べて寝転がっていることが1つの演劇的体験と捉える、そういう風に考えています。

アートや芸術と日常生活での人々の振る舞いがどのように関わり合いを持つことができるのか、感じていることや取り組まれていることなどあれば教えてください。

人それぞれあると思うんですけど、なんでしょうね、芸術って。でも仰々しく考える必要は全くないんです。なんかその人の生きる支えみたいなことの一つで、別にポップミュージックとかゲームとか何でもいと思っています。なんだろう、人々が生きていくときにどうしても解決できない問題ってあると思うんです。例えば、人の死とか。結局解決策はないんだけど、乗り越えていくための力みたいなものとして、アートってあるんじゃないかと思っています。

✦「孤独な旅にでよう」✦

相馬さんが学生のときに経験しておいてよかったと思うことなどありますか？

孤独な旅ですね笑。ヨーロッパに一人で行ったんですが、今のようにインターネットのある時代じゃないので、本当に大変で！ここで迷ったら死ぬみたいなお笑。

日本にずっといるとやっぱり偏った価値観の中でしか物を見ないんだけど、やっぱり一回20代の前半とかでバツと出て、何者でもない状態で海外に行くと、本当に試されるんですよね。その時に培ったコミュニケーション能力とか、あとはひたすら地図を読むとか、インターネットの地図なんかないので、この紙の地図がなくなったら死ぬみたいな緊張感の中で街を歩くとか、学生のうちに一回は経験してみるといいと思います。

✦「扉としての劇場を」✦

最後に、相馬さんの将来の目標を教えてください。

今まで色々話したんですが、とはいえ劇場って私はやっぱりいいと思っています。浜松町の再開発の一環で2027年にできる新しい劇場のプランニングに関わっているんです。劇場って本来的には都市の広場のような場所で、その都市に関わる人たちがやってきて、自分たちの共同体について考えるために劇をみたり討論してみたりみたいな場所だと思うんですが、ゼネコンが書いてくるプランだと、本当にタワマンの下層階に劇場があって、駅直結で、周りにどこにでもあるような店が入るみたいな感じにどうしてもなっちゃうんです。ゼネコン的な再開発はアートプロデューサーという立場で変えることはできないんですけど、中身は変えていける。もう出来てしまったビルとしての、建物としての劇場を、ある種のメタファーで、居心地のいい場所に作り替えていくことはできる、そういう面ですごくポテンシャルは感じています。

立地的にも、羽田空港や東京駅と近くて、日本のゲートウェイみたいな劇場になりうると思っています。日本は経済面では衰退の一途をたどっていくかもしれないけれど、扉の機能というか、人をウェルカムする力はまだまだあるので、アジアのいろんな、多様なものを受け入れてつなげていく、ハブのような機能は引き続き持てるんじゃないかな、個人的にはそういうことがやりたいです。ヨーロッパ中心の視座から作られてきたアートの世界や世界観をばらけさせて、アジアの中でのネットワークとその一つのハブとしての東京をもっと面白くしたくて。東京ってアジアの人とか元々沢山いる場所で、アジアの異なるものが混在するようなそういう都市のポテンシャルをアートの世界から見ていく。最近「扉としての劇場」みたいなことを言っています。別にそこに劇場があるから扉が開くんじゃなくて、扉があるからそこが劇場になるんです。そういう仕掛けづくりをやりたいなと思っています。

ありがとうございました！



Research Excursions

3 大学合同合宿

宇都宮・那須烏山



宇都宮大学大森研究室と東京都立大学小根山研究室、そして伊藤研究室の合同合宿を大金温泉を会場に開催しました。学生が互いに研究を発表し、異なる研究内容に理解を深めると同時に、専門の異なる先生方から普段のゼミとは違う視点で講評をいただきました。最後には先生方の熱のこもった講義も行われ充実した三日間となりました。



研究発表以外にも、ホテルの庭でバーベキューをしたり宴会で盛り上がりたりしました！普段話す機会の少ない他大学との交流は、文化の違いが感じられてとても新鮮でした。



2023年に開業したばかりの芳賀・宇都宮ライトレールに乗りし、市役所の方に車両基地をご案内いただきました。他大学との学生とも、理科大の同期たちとも親睦を深められた思い出に残る合同合宿でした。



研究合宿と三島巡検

熱海・三島



静岡県三島市の源兵衛川を巡検しました。富士山の伏流水等を源とする透明な流れが特徴です。川沿いには遊歩道が整備され、水辺には椅子が設置されており、そこに腰を下ろしてリラックスする人々の姿が見られました。また、川に足を浸し自然を身近に感じている人もおり、自然と人が調和したデザインに感銘を受けました。地域住民による保全活動も盛んで、豊かな水生植物や魚たちが息づく美しい環境が保たれています。この巡検を通じて、人と自然が共存することの意義を深く実感しました。



熱海での合宿では、論文の基礎を学びました。多くの既往研究を読み込んだ後、各々の視点からディスカッションを行うことで、研究の知見を深めました。また、B4は各班が事前に取り組んだ本と技術に関する春課題の発表を行いました。B4にとっては研究室に入って初めての発表であり、緊張しながらもゼミの雰囲気を感じました。温泉と食事で疲れを癒やされながら夜通し作業を行うたいへんな合宿でしたが、その後の研究の土台を築くことができました。



2024年もたくさんの思い出が
出来ました！



阪神の公共空間をめぐる夏合宿

📍大阪・神戸

大阪・神戸のまちづくりに関わっていらっしゃる方々からお話を伺いました。

KIITO 近藤健史さん

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 勤務「+クリエイティブ」をコンセプトに社会的課題の解決を目指すさまざまな活動やレクチャー、ワークショップ、展示などの企画運営を行う。

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) の近藤さんに、活動内容を伺い、施設をご案内いただきました。KIITOではクリエイティブスペースの貸出やイベントを少人数で運営しており、神戸のデザイン都市の取り組みを自然に感じられる場が理想との言葉が印象的でした。建物は100年以上の歴史を持つ旧生糸検査場を再活用しています。

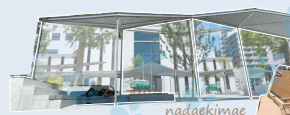


E-DESIGN 忽那裕樹さん

公園、広場、道路、河川の景観・環境デザインと使いこなし、その持続的なマネジメント・仕組みづくりを同時に企画、実施を行う。新しい公共を実現し、魅力的なパブリックスペースを創出している。



大阪で数多くのランドスケープデザインを手掛ける忽那さんに、街歩きをしながら広場や御堂筋を紹介して頂きました。以前はロータリーだったものが、今では腰を休める人や行き交う人が美しく映る広場へとなっていました。さらに、御堂筋を歩行者専用にしていきたいというお話をさせて頂き、これから大阪のまちが変わっていく様子を見れると思うとワクワクしました！



nadaakimae



KOBE parklet



tokotoko dandan



sankita hiroba

各地の公共空間を訪れ実際に過ごしてみました

ワークショップ開催

学部4年生の卒業研究の一環で、二つの地域にてワークショップを行いました。

📍掛川



卒業研究の一環で、掛川市職員や大学生、大学教授をはじめ掛川市民を中心に構成されたCode for Kakegawaに3日間インタビュー調査を行いました。事前調査で得た情報をもとに補足していただき、多様なメンバーがスキルや繋がりを活かして地元の企業の依頼や掛川市役所内の課題をテクノロジーを用いて解決するジビックテックの取り組みや背景を知ることができました。



📍浦安

7月13、14、20日に卒業研究の調査のため、浦安市で「すきまちワークショップ」を行いました。

市役所の方にも協力していただき、公園や公民館などで市民の方々に浦安市の小さな魅力を伺いました。実際に地図を見ながらお話を伺い、市民の方々しか知らない多くの浦安市の魅力を知ること、卒業論文を完成させることができました。



いろんなところにいきました！



Members' Activities

スタジオ in シンガポール

スタジオ課題の一環でシンガポールや他大学の学生と設計を行い、成果物をシンガポールで発表しました。異なる言語での交流は困難もありましたが楽しく意見を交わし、設計の進め方や表現方法の違いを学ぶ貴重な機会となりました。

修士1年 劉雨晴



インターンシップ in バンコク

Bangkok Tokyo Architecture にて3ヶ月間インターンシップを行いました。模型制作や内装設計に取り組みながらタイならではの構造や部材を知り、現場見学を通してタイでの施工過程を学びました。

写真は BTA 事務所の様子

修士1年 安藤順章



研究室メンバーたちは研究以外でも様々な活動を通して学びを深めています。

そんな研究室メンバーの活動の一部を紹介します。

プレイスメイキング in 横浜

スタジオ課題の一環でプレイスメイキングを学びました。これまでの設計ではリサーチ結果をどうエビデンス化するが悩みましたが、リサーチ結果を設計や社会実験に反映する手法について習得しました。1/1 スケールで街で社会実験を行えたのも新鮮でした！

修士1年 陳嘉儀



豊岡演劇祭

豊岡演劇祭にボランティアスタッフとして参加しました。活動を通じて出会った現地の大学生や、まちづくりに関わる方が演劇祭にかけける思いと、演劇文化が地域再生へつながる可能性を実感することが出来ました。

修士1年 辻本優子



大迫力の
マライオン



とろろ
戸外炉畔をみんなで
歩いたよ！

アユタヤの街中で
サイクリング



西三河巡検

岡崎市では ONE RIVER の岩ヶ谷さんに案内・解説していただきながら QURUWA プロジェクトで新設・再整備された桜城橋・中央緑道・籠田公園を中心にまわりました。広場としての道路空間が滞留や賑わいを生み出していました。

博士3年-谷和希



M2 北海道巡検

8日間かけて北海道を車で(ほぼ)1周する旅をしました。次の目的地までの距離に毎日驚きながらも無事に完走できました。雄大な自然やアイヌ文化、昭和の繁栄を感じる物悲しさなど街々で異なる個性を肌で感じる旅となりました。

修士2年 南谷優太



卒業旅行 in タイ

昨年のB4は、卒業旅行でタイに行きました。建築や遺跡、食べ物、海など、タイの文化を存分に味わった旅行となりました。現地では Bangkok Tokyo Architecture の久米さんを訪問し、タイでの建築事業についてお話をいただきました。

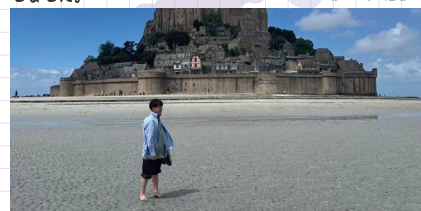
修士1年 古林隆



ヨーロッパ巡検

私はフランス、スペイン、イギリスを巡検してきました。各国の街並みや建築を歩きながら見ることで、歴史的背景や格差に対する現地民の態度などを肌で感じることができ、その場所に行くと体感する大切さを改めて実感しました。

修士2年 辻嶋



Activities of i-Lab

研究室の活動をご紹介します。

ゼミ

週に1度のゼミで研究内容の進捗報告の発表を行っています。学生、先生からの質問やコメントから自分では気づけない視点や課題点が見つかることがあります。



学会発表

研究成果を積極的に発表しています。日本建築学会大会（明治大学駿河台キャンパス）では他の方の発表も聞き、新たな視点から自身の研究を考えることができました。



シビックプライド研究会

18年目を迎えたシビックプライド研究会は、オンラインを中心に継続し、252回を数えています。現在は、3冊目となる本の出版に向けて、活動しています。



お誕生日会

5月の中間発表後、伊藤先生の誕生日を研究室のメンバーでお祝いしました。伊藤先生が「はじめてのケンタッキー」を美味しく食べていたのが印象的でした。



まちあるき

普段はあまり訪れることのない六本木・広尾・麻布エリア。歴史的・地理的魅力が多く宿るこの場所で、伊藤研の学生とB3が一緒にまちあるきを行いました。グループごとにコースを設定し、街の魅力に触れながらあるくことで、B3の学生に伊藤研の雰囲気を知ってもらえた良い機会となりました。



Dr. Takayanagi's Comment

高柳講師が助教として伊藤研究室に着任してから6年になります。これまでの伊藤研究室での活動について聞きました。

伊藤研での6年間、伊藤先生や学生の皆さんに支えられながら楽しく（好き勝手に!?!）過ごすことができました。研究室での雑談も楽しいのですが（作業を邪魔してすみません!）、皆さんと様々な地域と一緒に歩き（時に早足で置いてきばりにさせ）ながら、都市の表層にちらついている「文化的」「創造的」なカケラを拾い集める時間がとても好きでした。

まちを「好きな」人が都市や地域の研究をすること、自身が創造的な人が研究をすることの意義も教えてもらいました。研究でなにか身体的な知や、見えざる本質につながっていったときの快感は代え難いものがあります。

いい研究や成果がでているのにまだ発表できていないものも多いので（すみません...）、今後も研究や創造的な活動に一緒にできればと思っています！ありがとうございました！

高柳誠也

高柳講師の印象

社会の営みに向ける温かい眼差しと、地域の理をドライに読み解く視点を併せ持つ研究者。集落アタッカー。これからますます活躍されると思います。歩くスピードが合うので、どこへ行っても楽しい。

伊藤香織

一歩踏み出す勇気をくれる先生です。個人的に、卒論では榎田集落を深掘りするきっかけを与えてくれたりなど、多くの場面で先生の広く深い知識と熱い姿勢に何度も背中を押してもらいました。

修士2年 伊藤陽人

高柳先生はいつも明るく、研究室にいらっしやると雰囲気良くなります。研究では確かなアドバイスで、私含め学生全員に研究の楽しさを伝えていただきました。アツい高柳先生が大好きです！

修士1年 古林雄

いつも学生と一緒にって親身に考えてくれる先生です。普段のゼミや雑談での、私にはない視点からのコメントが、調査や研究を進めるきっかけや注意点になり、大変勉強になりました。

学部4年 鈴木修真



Design/Theses/Papers

2023 年度 修士設計

- 大山優** 葬送堆験－死生観と自然から考える葬送の在り方と空間－
北村公佑 人が生きる町－βiosとζωηを培う中動的空間－
島茉莉香 Co-Re:yama Harmonic Hotel- 桑都郡山・旧奥州街道の再興－
室賀恒輝 逍遙の森－環境を映す風景としてのランドアート－

2023 年度 卒業設計

- 安藤朋恵** 共感し、街を知る
太田一帆 ナガレの継承
 - クリークと長崎街道の失われた繋がりを再構築する商住空間の設計－
チンカタン 上海外灘常設展「四月の声」－コロナから二周年－
辻本桜子 世代が交わる街のいえ
許山桂 縫い合わせる

2023 年度 修士論文

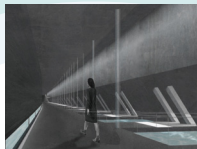
- 岡野遼太郎** 不寛容の解釈による公園の公共性に関する一考察
 - 渋谷駅周辺の公園を事例とした記号的記述－
中積弥垣 取組内容と環境の時間的変化からみるアダプティブ型市民活動の特性
 - さがクリークネットを対象として－
平井聡一郎 三次元骨格推定技術を用いた姿勢解析からみる屋外公共空間での着座者の環境への応答

2023 年度 卒業論文 (通年コース)

- 古林陸** **本庄翠葉** スポーツデザートの発生状況に関する研究 **最優秀卒業論文賞**
劉雨萌 **リウルセン** 大学生の近隣拠点駅周辺での行動特性－柏駅周辺を対象として－
齋藤和奏 新聞記事の記述内容からみた浜松市中心市街地の変化

2024 年度 卒業論文 (一般コース)

- 須藤喜己** **高橋奎介** 参加者が有する技術や属性に着目したシビックテックプロジェクトの展開
 - Code for Kakegawa を対象として－
大上翔子 **鎌田航** **窪木愛乃** 住民の印象に残る場所とその特徴
 ～浦安市でのワークショップ型インタビュー調査を通して～
鈴木悠真 最寄り駅とキャンパス周辺のスケッチマップからみる大学生の空間把握の特徴
優秀卒業論文賞



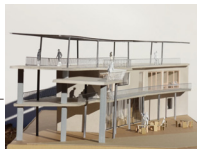
大山優



室賀恒輝



辻本桜子



許山桂

査読付き論文

安藤朋恵, 太田一帆, 伊藤香織, 高柳誠也, 瀬戸寿一 (2024), 活動への参加状況にみるシビックテックコミュニティの変容: Code for Saga を対象として, 実践政策学 10(1), 77-84.

小浦久子, 長濱伸貴, 伊藤香織 (2024), 地区レベルの実践と都市の計画をつなぐ計画論: 岡崎市・佐賀市・前橋市の中心市街地の再生への取り組みから, 都市計画論文集 59(3), pp.1462-1468.

対外発表

Kaori Ito (2024), Recognition of Tsunami Risk Indicated by Yagō House-Name Vocabulary: A Case Study of the Former Karakuwa Town, Japan, Symposium of the International Association of Geo-informatics (IAG' i) and The 13th International Conference on Earth Observations and Societal Impacts (ICEO&SI 2024).

Seiya Takayanagi (2024), Population Dynamics in Regions with Multiple Disaster Risks in Japan, Symposium of the International Association of Geo-informatics (IAG' i) and The 13th International Conference on Earth Observations and Societal Impacts (ICEO&SI 2024).

Tomoe Ando, Kazuho Ota, Kaori Ito, Seiya Takayanagi, Toshikazu Seto (2024), Dynamics of Civic Tech Communities: A Case of Code for Saga, Japan, The 35th International Geographical Congress.

Seiya Takayanagi, Kodama Sato, Yuta Minamitani, Kaori Ito (2024), Relationship between Demographics and Land-Use Change in Flood-prone Areas and Trends in the Location of Facilities for Disaster-Vulnerable Populations in the Kuma River in Japan, The 35th International Geographical Congress.

Seiya Takayanagi (2024), Research on Population and Land Use Changes in Regions with Multiple Disaster Risks in Japan, 17th Asian Planning School Association Congress.

伊藤陽人, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 周辺の植栽配置に着目したベンチ利用に関する印象評価, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.23-24.

濱松翔, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 就労者の働き方と外出行動との関係: 第 6 回東京都市圏バーサントリップ調査データを用いて, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.359-360.

天野航一, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), SC 内店舗・個別店舗の業種比較からみる港北ニュータウンの商業構造に関する一考察, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.385-386.

許山桂, 辻本桜子, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 「演劇の街」下北沢における劇場群に関する研究: 公演記録に基づく劇団の活動に着目して, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.387-388.

陳嘉檀, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 骨格推定を用いた公共空間でのベンチ着座姿勢に関する分析, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.565-566.

古林陸, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 中規模都市でのスポーツデザートの発生状況に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集都市計画, pp.615-616.

安藤朋恵, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), シビックテックコミュニティへの参加の状況にみる活動の変容: Code for Saga を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.979-980.

劉雨萌, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 来街時の訪問地決定の特徴: 大学の近隣拠点駅を訪れる大学生の行動から, 日本建築学会学術講演梗概集 建築計画, pp.687-688.

許山桂, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 瀬戸内海の航路ネットワークと島嶼部に関する基礎的分析, 第 70 回土木計画学研究発表会・講演集.

上村知輝, 佐々木俊太, 伊藤香織, 高柳誠也 (2024), 宿絵図からみた中山道宿場町の街区・敷地割の変化・奈良井宿・須原宿・野尻宿・妻籠宿を対象として・, 土木学会景観・デザイン研究講演集, No.20, pp.145-156.